

社会福祉学研究科アドミッション・ポリシー

＜博士前期課程＞

教育理念

1. 社会福祉領域の構造的変化に対応した新たな福祉政策や社会福祉システムの開発、ますます多問題化、複合化する個別福祉ニーズの理解と問題解決などに関わる深い人間科学および社会科学的識見と専門的知識・技術を有し、かつ他の職種と連携しながら社会福祉現場をリードできる高度な専門職業能力と資質の形成を目指します。
2. 質の高い福祉人材の地域社会への供給と職業人のリカレント教育を循環、結合することをおして理論的課題と福祉実践の統合教育を推し進め、福祉教育および研究と現場実践との橋渡しの役割を果たすことのできる統合能力の形成を図ります。

養成する人材像

- 国、地方等各レベルの行政機関において福祉ニーズの把握、福祉計画の立案、福祉政策の実施・評価を担う、高度で専門的な知識とリサーチ及びマネジメント技法を修得した人材
- 企業、地域社会、国際社会などの各方面における新たな福祉課題や対応について研究開発し、変動する地域や企業の福祉需要に貢献する専門知識を修得した人材
- 高齢者、障害者、児童福祉及び生活上の支援を要する福祉臨床の実践の中で、複雑化するニーズに対応できる高度な知識と福祉臨床技法を修得したソーシャル・ワークの専門的人材
- 学校、家庭、地域社会、職場で発生する多様な心理的問題に対応するために、クライアントの社会的状況と心理的過程に沿った臨床学的援助を提供できる専門的理論と援助技術を修得した人材
- 福祉実践の場や関連領域での福祉業務に携わっている社会人が、それぞれの専門領域の知識、技術を高度化するために生ずる学際的な研究ニーズをもち、かつ、その分野において補完すべき知識を求めて社会福祉研究を進めようとするデュアル志向型の人材
- 社会福祉の理論、課題、方法等に問題意識を持ち、福祉の領域におけるプロフェッショナルの視点と方法を学術的に精緻化するために博士課程等へ進学を目指す研究志向の人材

＜博士後期課程＞

教育理念

博士課程後期課程の研究指導理念は「福祉コミュニティ」を構築するための研究開発（R&D）と、実証的根拠に基づく実践理論・技法（EBPT）の研究にその中心を置きます。そのため先行研究の十分な検討に加えて、従来の社会福祉の領域に留まらない多面的なニーズの表出を包含できる発展的視点で研究テーマを再構築するとともに、実証的なデータと結びつけ、具体的問題の解決に寄与できる理論構成を探究することを、基本的な教育研究の方向とします。

養成する人材像

本課程の教育研究は、次に示す人材の育成を意図する。

- 多面的な社会福祉分野において、高度なコンサルテーション、リエゾン・コンサルテーションを行う能力を有する人材
- 地域や行政に対して、福祉・心理・保健・医療分野でのシンクタンク機能を担うための能力を修得した人材
- 岩手県立大学が位置する地域特性を活かし、わが国の同様の特性を持つ地域と連携し、さらには国際的視野に立ち、研究成果を築くことができる人材
- 社会福祉に関わる実践領域、研究機関、教育機関において求められる研究能力と実践能力を兼ね備えた人材

以上を通じて、実践課題に柔軟かつ確実に対応できる研究者、教育者としての自立的な研究を展開できる人材養成もさらに視野に置きます。